

## がんと向き合う気持ち

園芸家 四方 美希 先生

現在園芸家として花の仕事をしています。  
12年前に腎臓がんになり、リンパ節と肺に転移しました。現在も抗がん剤の治療を続けています。

日常生活も不自由なくすごしていますが、10年前は抗がん剤の副作用で歩けないうらい衰弱していました。そんな時の唯一の楽しみは花の世話をすることでした。

花には不思議な力があり、花束をプレゼントでもらうと嬉しくて笑顔になります。また、植物を育てることは、花色や香りといった視覚や嗅覚、花とふれ合う触覚など五感を刺激して感受性を豊かにする効果があります。

土を触り花と触れ合うことで体調は回復していきました。

花の繋がりから、みぶなの会の学習会で今まで経験したことをお話しさせていただきました。

講演日はコロナ禍以降中止になっていたみぶなの会の久しぶりの開催ということでした。

みなさんが「久しぶりです、お元気でした

令和3年3月17日の学習会で講師をしていただきました！

か？」と、出会えて嬉しそうな声は、普段から京都市立病院と患者さんの絆の結びつきを強く感じました。

がんという病気になり、ひとりでがんと向き合うと悪いことばかりを考えて落ち込むことがあります。

そんな時はわかりあえる仲間、支えてくれる医療従事者と話すことで心の負担も減り、気持ちが明るくなります。

コロナ禍でここまで世界が変わるとは誰も思いませんでした。半年後、1年後もどうなるかわかりません。

しかし、明日のことなら予想もでき計画して行動できます。

こうした毎日の一步一步の積み重ねが未来へと続く道になると思うので、笑顔を絶やさず前向きな気持ちで過ごしていきましょう。



学習会のようす



京都市立病院  
トピックス

## (5E) 緩和ケア病棟の活動

### ～季節のイベントより～

令和3年12月17日にクリスマス会を行いました！スタッフがトーンチャイムやピアノで演奏、患者さんと一緒にきよしこの夜・ジングルベルを合唱しました。冗談を交えながら盛り上げてくださった患者さん、ベッドから見守ってくださった患者さん、いつもより安らいだ表情の患者さん。

さいごに、はいチーズ！笑顔で記念写真♪  
コロナでしんどい時期が続きますが、スタッフも元気づけられる機会となりました。今後も、緩和ケア病棟では季節のイベントを企画していきます。



家族控室/ラウンジ

病室

### 絵本「にじいろのお花」 ～「がん」と診断されたとき 家族のことが浮かんだあなたへ～

病気のことをお子さんにどのように伝えるのか、悩んでいる場面に出会うことがあります。この絵本が家族で話し合っていただくきっかけになればという思いを込めて作成しました。大切なお子さんのことを一緒に考えていきましょう。



### 「がんとお金のガイド」 「がんとお金の相談窓口」パンフレット

京都市立病院では、がん患者さんの就労・両立支援に力を入れています。「どんな方が、どんな制度を、どのタイミング(目的)で」利用できるのか、整理するお手伝いをできればとの思いで作成しました。産業保健総合支援センター・ハローワークとの連携も積極的に行っています。



京都市立病院の患者さん・家族さんだけでなく、希望される方にお渡ししています。ご自由にお持ち帰りください。ご相談もお待ちしております。



地方独立行政法人 京都市立病院機構  
**京都市立病院**  
患者支援センター

〒604-8845 京都市中京区壬生東高田町1-2  
TEL 075-311-5311 FAX 075-311-9862  
<https://www.kch-org.jp/>

# みぶなの会

自分らしくがんと向き合うために



2022.2 Vol. 13

- 2 消化器がんの「腹腔鏡手術」と「ロボット手術」について
- 4 「放射線療法看護外来」開設のお知らせ
- 5 投稿 みぶな広場
- 6 京都市立病院トピックス  
・(5E)緩和ケア病棟の活動  
～季節のイベントより～  
・がん相談支援センターの活動紹介



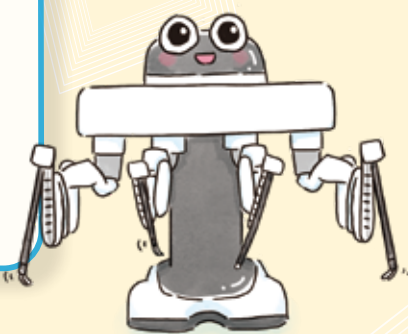
地方独立行政法人 京都市立病院機構  
**京都市立病院**

# 消化器がんの「腹腔鏡手術」と「ロボット手術」について

総合外科部長  
佐藤 誠二

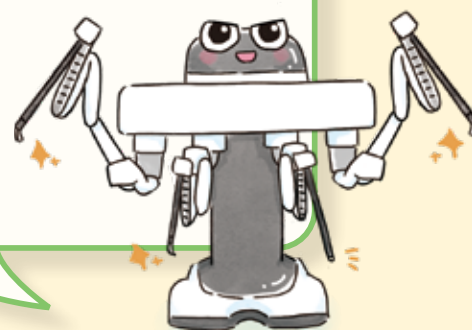


この結果、術者は安定した立体画像を見ながら、カラダの深い場所でも正確に手術を行えます。ロボット手術により、「胃がん」では、がん病巣とともに、転移の可能性のあるリンパ節もきれいに切除されます。切除後の再建も安定して行えるため、合併症が少ないことが示されています。「直腸がん」では、ロボット手術で骨盤最深部の肛門に近い場所も手術できるため、肛門が温存できる患者さんが増えました。このようなメリットから、京都市立病院では90%以上の「胃がん」や「直腸がん」の患者さんにロボット手術を行っています。



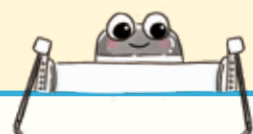
## 京都市立病院のロボット手術の特徴

京都市立病院では、消化器外科、泌尿器科、呼吸器外科で年間約200件のロボット手術が行われています。これは、京都市内では第2位の件数です。ロボット手術のエキスパートである医師、看護師、臨床工学技士が協力してワンチームで、安全で安心なロボット手術を提供しています。京都市立病院の消化器外科では、毎週ロボット手術が行われ、現在までに約120件のロボット手術を行いました。消化器外科のロボット手術の特徴として、ロボットの強力な牽引操作で切除する側と残す側の境界を明確にして、正確ながん病巣の切除を行っています。ロボット手術では止血性能が弱いのがデメリットでしたが、消化器外科では多関節のアームの先端に、独自の設定で止血力を高めた小型のハサミを使用し、正確で出血のない手術操作を行っています。



## おわりに

京都市立病院の「胃がん」・「直腸がん」の腹腔鏡手術・ロボット手術について紹介しました。京都市立病院消化器外科のスタッフは「がんを楽にしっかり治す」外科治療の提供を心がけて日々の診療を行っています。また、京都市立病院のがん治療のモットーは「ともに創り、笑顔になれるがん医療」です。京都市立病院にご紹介いただいたがん患者さんは、カンサーボードという会議で、消化器外科、消化器内科、放射線診断科、放射線治療科、腫瘍内科のエキスパートが、最適な治療を検討し、それぞれの患者さんにシームレスな医療を提供しています。はじめて「がん」と向き合うことになった患者さんは強い不安を感じると思います。がん患者さんの精神的サポートや就労支援、退院後のサポートなどは「がん相談支援センター」のスタッフなどがご案内します。もし「がん」の治療が必要と言われたら、安心して京都市立病院で治療を受けていただければ幸いです。

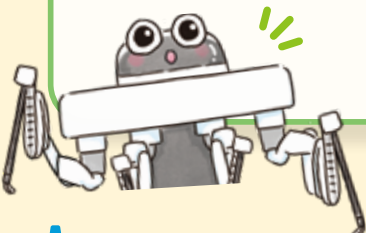


## 消化器がんについて

消化器の「がん」は、年間約40万人のヒトが罹る、とても多い病気です。中でも「胃がん」と「大腸がん」は頻度が高い領域です。「胃がん」・「大腸がん」の治療法は、進行度によって変わります。早期がんでは胃カメラや大腸ファイバーで「がん」だけを削り取る方法、進行がんでは手術、高度進行がんでは、抗がん剤治療が一般的です。今回は、「胃がん」や「直腸がん」の手術の中でも、体に負担が少なく、精密な手術ができる「腹腔鏡手術」と「ロボット手術(内視鏡手術支援装置)」について紹介します。

## 腹腔鏡手術について

「胃がん」や「大腸がん」の手術では、大きく開腹して「がん」を切除していましたが、手術後の痛みや腸閉塞の発生などが開腹手術を受けた患者さんを苦しめてきました。そこで、最近では痛みや腸閉塞が少ない腹腔鏡手術が行われることが多くなっています。腹腔鏡手術では、おなかを炭酸ガスで膨らませ、おへその切開から挿入したハイビジョンのファイバースコープで観察しながら手術を行います。手術操作は4か所の小切開から挿入した細長い手術器具(鉗子)で行うのが一般的です。切除した病巣は、おへその切開をやや延長して取り出します。京都市立病院では、3D内視鏡システムを使って、体内を立体的に見ながら手術を行っているため、より精密な手術が可能になっています。



## 腹腔鏡手術からロボット手術へ

腹腔鏡手術は、傷が小さくカラダにやさしい手術ですが、いくつか問題点があります。スコープや鉗子をヒトが操作するために、手ブレが起こり、術者が正確に手術を行うのを妨げます。また、鉗子が直線で曲がらないためカラダの深いところでは操作しにくい。この問題を解決するために、ダビンチというロボット手術装置(内視鏡手術支援装置)が登場しました。ロボット手術では、患者さんに挿入された3Dスコープと3本のアームを、術者が離れた操縦席から操作します。アームも3Dスコープも、術者の指示を受けたロボットが操作するので手ブレは起こりませんし、アームは7つの関節によって自由に曲げることができます。

# 「放射線療法看護外来」開設のお知らせ

放射線療法は、患部に放射線を照射することで病気を治療する方法で、手術療法・薬物療法とならぶ「がんの三大治療法」の1つです。体を傷つけることなく治療をすることができるため、患者さんの体への負担が少ないことが特徴です。しかし、放射線治療を行う過程で副作用が出る可能性があり、その副作用が治療終了後から数年にわたり、患者さんの生活に影響を及ぼす場合があります。

患者さんが安心して治療を受け、治療後も安心して日常生活を過ごしていただくために、令和4年1月に放射線療法看護外来を開設しました。

「放射線治療を先生から勧められたけど放射線治療って不安だ」「もう少し放射線治療について知りたい」という患者さんの声や症状に応じたケア方法や、副作用に伴う生活上の工夫など、治療前・治療後を通してがん放射線療法看護認定看護師がサポートします。

放射線療法看護外来は、当院で放射線治療を受けておられる患者さんが対象です。ご希望される場合は、主治医もしくは放射線治療医へご相談ください。

外来日	第1水曜日・第3水曜日
場所	コメディカル外来 16診 (本館1階 1Cブロック)
費用	保険診療で受けられます
担当者	がん放射線療法看護認定看護師2名 杵岡かおる・中川紀直



1階コメディカル外来の中にある診察室



個室の診察室

プライバシーが守られた環境でお話を聞かせていただきます